

温暖化対策税制を めぐる諸論点について

2004年4月14日

環境経済・政策学会

植田和弘



1. 環境税研究の発展史(1)

- ・ A.C.ピグー(1920)

外部不経済の内部化

- ・ 環境政策の制度化

- ・ W.ボーモル & W.オーツ(1971)



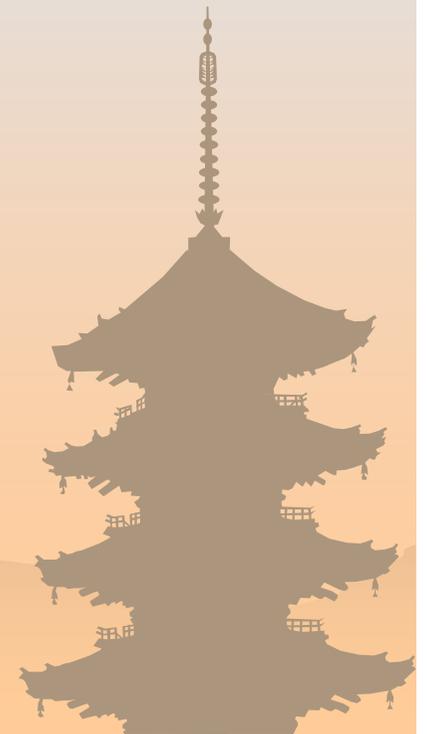
2. 環境税研究の発展史(2)

- ・理論上の税から現実の税へ
- ・税収の使途
- ・環境税制改革
- ・税制上の位置付け



3 . 環境税研究の発展史 (3)

- ・ 効果と影響の評価
- ・ 政策手法の相互比較
- ・ ポリシー・ミックス
- ・ 制度設計問題



4 . 温暖化対策税制 (1)

(1) 評価基準

- ・ 環境効果 . . . 環境目標の達成
- ・ 効率性 静学的、動学的
- ・ 公平性
- ・ 制度の确实性と受容性



5 . 温暖化対策税制 (2)

(2) 租税としての評価基準

(3) 日本の場合

これまでの政策

既存の税制



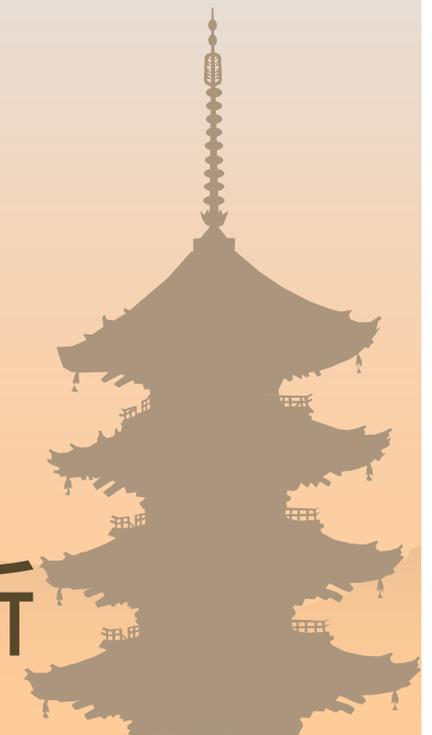
6. 専門委員会報告をめぐる諸論点(1)

(1) 地球温暖化対策の制度設計

(2) 温暖化対策税の効果

(3) 温暖化対策税の影響

(4) AIMモデルによる分析



7. 専門委員会報告をめぐる諸論点(2)

(5) 競争力への影響

(6) 税制の設計、税収の使途

(7) ポリシー・ミックス

